

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

急激な脱炭素シフトが日本企業の経営を圧迫する

1. 日本製鉄がトヨタ自動車を提訴、ソニーグループ、デンソーと台湾半導体TSMCのタッグ。この二つの大事件に共通しているのは、発端が世界的な脱炭素シフトにあるということだ。主要国のグローバル企業が、グリーン経済戦争の覇権を握ろうと命懸けのアクションを起こし始めている。
2. 企業の競争力を測る物差しが「利益」から「炭素」に変わる。炭素を垂れ流す非エコな企業はビジネスの参加資格すら得られなくなる。典型的なのが米アップルだ。2030年までにサプライチェーンの100%において脱炭素を達成する方針を掲げたのだ。石炭火力由来の「汚い電気」で作られた日本の電子部品は、アップルへの納入ができなくなってしまう。
3. 炭素を減らす取り組み、ビジネスモデルのチェンジ、脱炭素リスクの情報開示に伴う事務的コストの増加。急激な脱炭素シフトが、日本企業の経営を大きく圧迫しようとしている。とりわけ、大量に炭素を排出する日本の製造業やエネルギー業界は、脱炭素対応が死活問題になりかねない。(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年11月6日号)

幹部への活きた言葉

読書で自省の機会を得た

数土 文夫 (JFEホールディングス名誉顧問)

1. 会社を経営する上で「代表的日本人」を読んでいてよかったと思うことがたびたびありました。上杉鷹山の章にある言葉で言えば、「民を視ること傷むがごとし」がそうです。これは鷹山の座右の銘だったそうですが、要するに上に立つ人間は会社の従業員や人々の立場に立って、優しい思いやりの目で見えてあげないといけないということです。
2. 経営者は、果たして自分が私利私欲から完全に脱して事に当たっているかを常に胸に手を当てて問い質さないとはいけません。私が幸いだったのは、若いうちに読書を通してそのような自省の機会を得てきたことです。だから人生を誤らずに済んだと思っています。

(参考:「致知」:2021年12月号)

人事・労務について

人間は生涯進化する

川本 裕子 (人事院総裁)

1. 難しい課題に直面したとき、成長型思考の人間は良い学習の機会と捉え、学ぶために解決に向けた努力を続ける。一方、固定型思考の人は失敗を恐れ努力に意義を感じない。他人の成功も学ぶ材料と歓迎する成長型思考に対し、固定型思考は他人の成功を脅威に感じたり、嫉妬の対象にしたりしてしまう。
2. 人間の脳神経は、経験や学習で絶え間なく新しい結合が作られ、生涯進化が続くと科学は示す。成長型思考は、脳科学的にも裏付けされているのだ。どのような人の心理にも必ず固定型思考(惰性、自信のなさなど)が内在する。他方、人間の脳には柔軟性があり、成長型思考を意識的に育てていく手法もあるそうだ。日本の多くの組織は成長型思考を拡大することで、直面する壁を打ち破れると感じる。

(参考:「日経ビジネス」2021年11月15日号)

古典に学ぶ

一時の困難に対しては勇気を起こす

(解説) 我国の商工業を見るに、多くは不統一にして振るわず、殊に戦乱の影響を受け、生糸の値は下落し、綿糸綿布の販路は渋滞し、有価証券の価は下落し、新たな事業は起こらざるの状態にある。この際一時の困難は耐え難くとも、当事者は大いに勇気を起さねばならぬところである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)